

A0

101



父林堂藏板畧目錄

龜屋父藏

江戸名物往来 中本

并江戸繪図

江戸年中往来 中本

清明秘傳 山ぬらふふい 全

早見まねくら占 全

鎌倉一覽文章 中本

江戸嶋詣文章 中本

大増補 頭書 字寶節用集 中本 全

男女八卦 いろはらふふい 改正 全

父林古状揃 無点 全

頭書 大金節用集千金藏 全



新化年注文

むんちゅうさくど ぶん
番田仍事父藏

今意深酒之在浦杉親録

向院相輝老普後為抄控

被撰入種梁仍集及全書

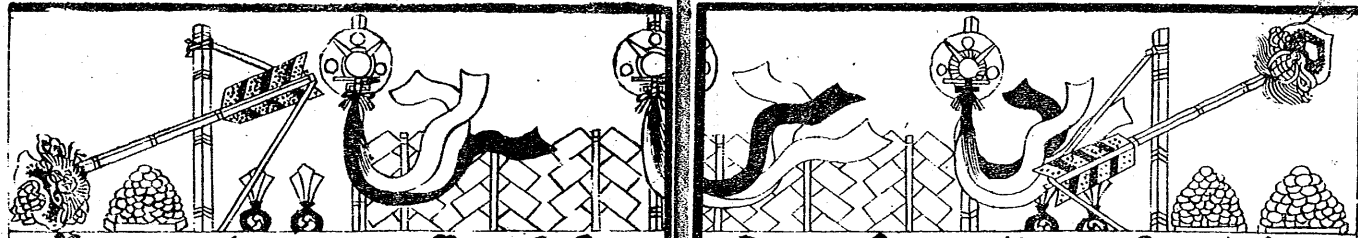
撰者自良辰為抄和家定



考り申す如く入りて申すは、
 罪方捕縛、越境、
 久延、
 倭と、
 各處へ去りて、
 禁居、

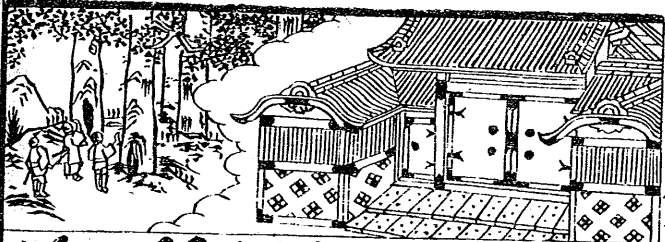


門、
 表門、
 表門、
 表門、
 表門、
 表門、
 表門、

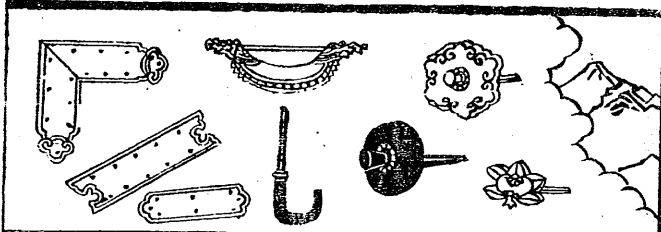


鏡天弁内外符本間林遊放
 紫深統牙符本然當行於
 養僕生亦服拘刺物繪板
 武者憲出瑞字下祝慶左
 右相同綴板紐板形權

縁徳行爲魏板長押板
 本是之具為衣之尾袋
 山之檜櫃櫃梅等七間周地
 也形如衣襟木氣之方雲
 卷且與梁柱木梁板裏中



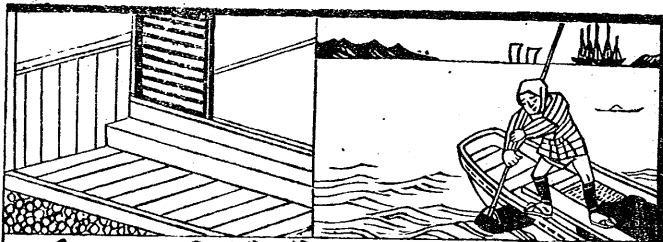
葉木亦板裏板後原木葉
 のごまひ、あつたのびせ、SMT、あつたのびせ
 野香を伐樹木を伐樹木を
 用之將又鉄物を鉄物に
 双結尾雲衣通痛根包物
 鉄物鉄中鉄物に前鉄物



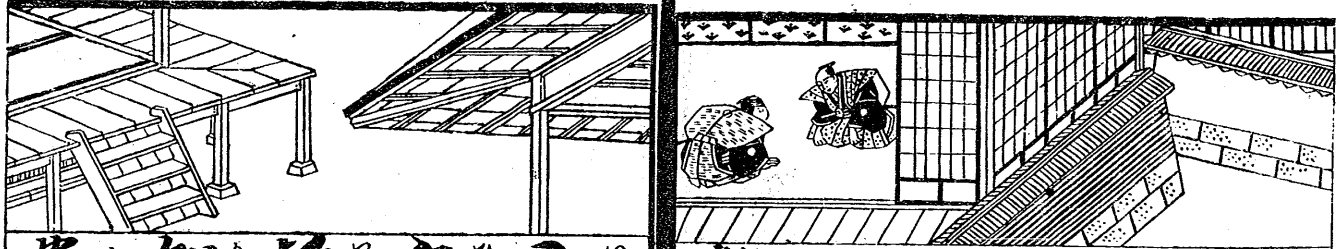
海老根物鉄物打鉄物
 珠焼漆又初者兼青田石
 及合身は徳治初老任系
 松木以上板板切石橋運木



此は...
 方九官...
 川内...
 舟上...
 尤...



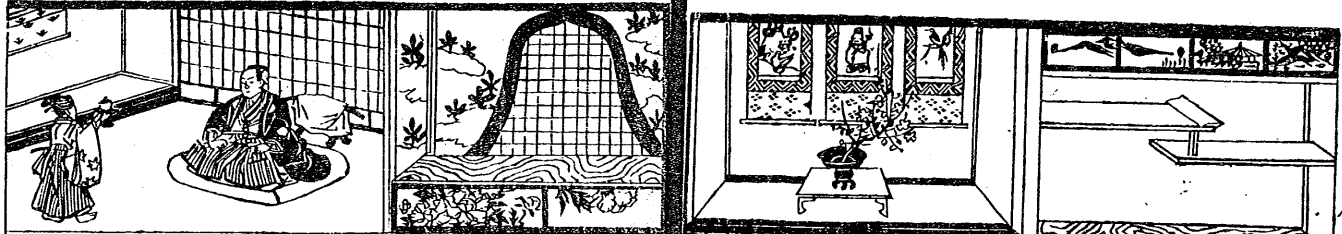
此者...
 海...
 舟...
 舟...
 除...



竹事

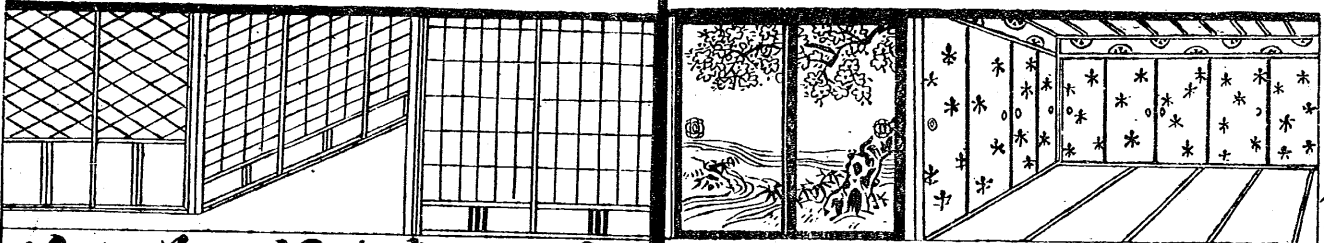
又其播之獨法於持和何益
ありてん とう こ ひん びん びん びん
 政根獨火總附之有據改
しんね ぐみ とう とう とう とう とう
 亦之根於又據其為亦親能
ま ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ
 仍法之每不相建之能之爾後
さあ せい せい せい せい せい せい
 者之聞廣聞出院之上際有
しや まひろ ちやういん ちやういん

入側之法或皆人全之有是
いりかたのほう かく かく かく かく かく
 庶盡板之為能之鷄生何物
しよ じゆん ばん ばん ばん ばん ばん
 板割書切目板仍板白例揚
ばん ばん ばん ばん ばん ばん ばん
 然亦遠棚高據其後附其地
しかん ちん ちん ちん ちん ちん ちん
 等亦亦之好不有之也其
とう とう とう とう とう とう とう



白雲展開清閑之間之麗
 松之剛神權公閑致之麗納
 戸集張如清閑高之閑湯
 殿雲張長扇之老女中奉
 女者之初登之遊舞其之

遣戸妻之初登之遊舞其之
 襖皆之秋田松之白雲
 力子入引手板入縁之麗色
 春慶堂張等尤定秋後
 椽中附唐紙之福内掛



青金虎りく老字田舎子

相利雨戸を廻折板と下

直六本機車付の改定後

後陣子明陣子内能子八五

組林延養組礼組酒に建

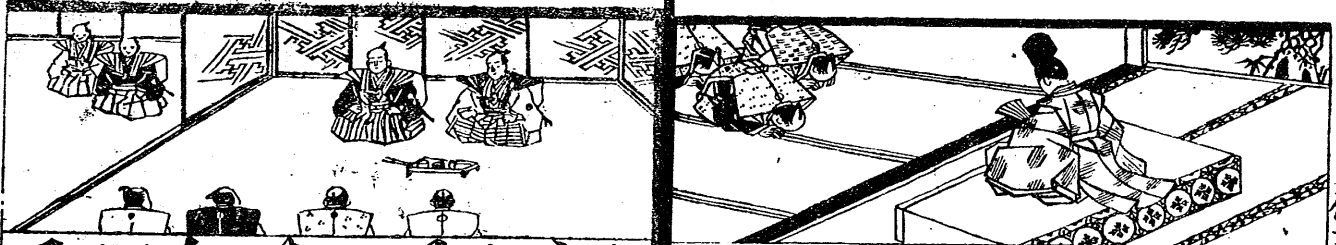
西守才有く也老字日床

去九通十一二十三十五毎三

前延延延表を後好虎之

道子鴻去後又去備中表

近江表隊球有月本合年也



今 ありらむ
 経老高藤縁又相麻呂
 地縁号也舞衣樂衣装束
 祝言懐恋對秋閑客在
 衣縁長家老用人富臣初次
 浦之津園初夜伎下速原

方老本道亦科業終所卷
 子之問學問茶道之樂
 和定本卷初夜号追志内
 法生衣法清下之定持法
 天井板と極竿縁長持時

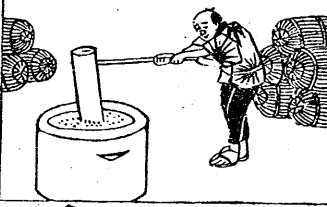
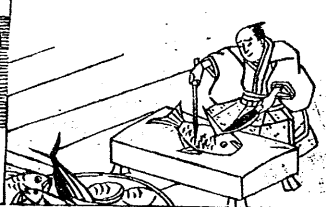
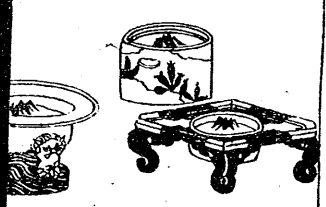
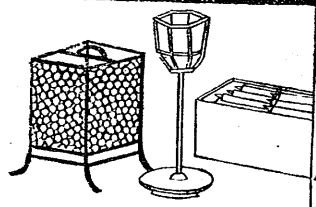


行一蘇



居鴨居為物蘭間行の荷
 等進彼程之任方と不奉
 可有身及後念の自身
 中者先付既因院に所為
 毎路に格武後府の傳

可相引勿備記在之水取
 以明不存に地刻畫と手
 吟味也形と分く問及後板
 有厚板以二重之等又者
 石反粗糠炭等七人物表



作事

乃牝部也坊主不為亦配
あんどろへやあろふ ぬすもーたす
 間輒烟火跡亦之押入格之
らうきひなち あひまきまーん
 其亦登下電長圍却程
せんたか ぶらうり ちゆうじい ちま
 播之之間新柱不板流解
まきひなを しかのりんあち
 負千負担物乾物等之量
あぢ

聖孺子宜喜從相考之
せいじゆこ ちよき じゆく けう
 小傳抄卷春夜味味珍珍酒
こつひ べや ちよやまをせうぢ ぢぢ
 彫篆新漢物等之物重梳
すまき ちよやまの ぢぢ のあぢん
 家具漱老物本具吹法卷
かぐ せうこ ほんぐ ちよやま
 不為之人一級之反以舊泊處
ぬすもーん ぢぢ ちゆうぢん ちよやま



おんぎん べーちん ちんちん ちんちん ちんちん
 之居牙お建く将之殿
 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん
 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん
 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん
 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん
 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

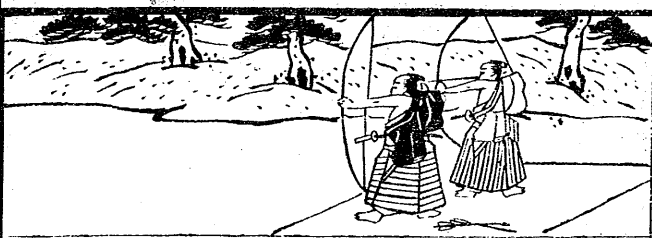
ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん
 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん
 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん
 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

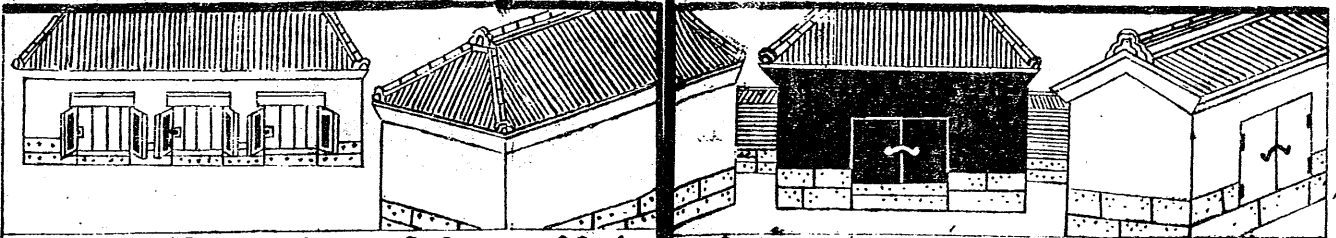
ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん
 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん
 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん



甲折釘狀物等之綴接法
 之通下惣河次別為合展
 不烟焚亦馬太食標極業
 意兼取意竹馬因標
 兵亦標傷長原亦標標

合食可相避之馬傷言
 財術的場地於以場後
 他何致取市且古務大室流
 欠原食食庫家具食穀
 物為地於溝填致於控



うちまきすんごうさうごまけり
 打込推去巻切込切込
うらまき すんごう さうごま けり

押入実後太之間から小間部
おし いり じつご たいのま ちから しょうま ぶ

大層共隔と柱下當巻
おほいろう どもくわく と ちゅう げ とうまき

高居張上巻を柱檜葉
たかゐり ちやうじょうまき を ちゅう ひの ば

兼音物巻切大秤合巻
あまね ねもの まき けり おほい ぢかり ぐわい

此棟二階梁裏板と居巻
このむね ふたおの かりやう うちら ぼう と ゐまき

等々且赤二重二重屋飛
とうとう かつしやく じゅうじゅう じゅうじゅう やい

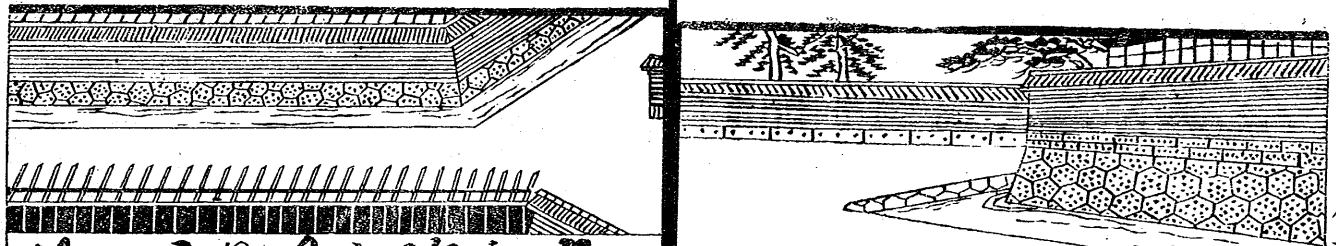
巻込前後網巻通合巻
まきこめ ぜんごう みの まき とおあひまき

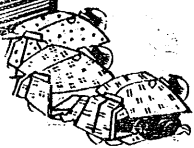
込巻戻不貫板切中納合
こまき へらふり へらふり いたて せうなひあひ

縁巻老木止竹大八行上巻
えりまき いらふし けり おほやちやう じやうじやうまき

能撥下枕巻皆能中巻
 若伊豫字和清上蔵能撥
 為政荒打抄撰能撥太
 小車中巻上巻抄巻能撥
 巻巻込陰出波撰巻荒

南云小抄刻入上石反人若
 塩入筆立て申以外板下
 凡外周練候板撰忍忍
 至と仕振を説文書所
 矢上段前巻巻を以て心記





奉幼穠深杖者此是
 淡の秋後理を也
 用字依公深此書之定
 有懷書記年
 昔面仍年又系統

楷書千字文

石指
两点

御家千字文

两点
全

富士野往来

頭書
改正武鑑

實語教童子教

無点
かふ付

頭書 治世庭訓往来

全

人相手引早合点

全

誦諧 發句類題集

一具卷
大選
中本

五體名頭文字鑑

中本

滿喜用文章

一九作
并書状認様

頭書 世帯往来

中本

東都書林

兩國橋通吉川町 山田佐助
今川橋新華屋町 龜屋文藏